

67

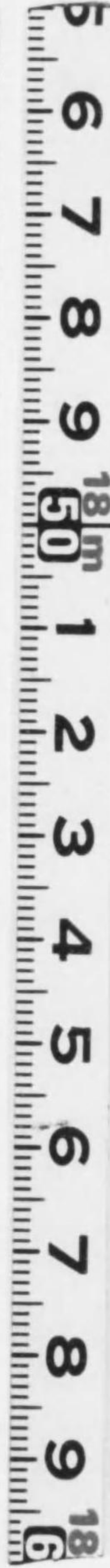
特252

621

# 新日本のスウェーデン運動

— 明倫會の真相 —

大阪時事新報社發行



# 始





寺252

621

337-551

## 序

邦家内外多難の秋、當然起るべくして起らなかつた國民的愛國運動は遂に起つた。即ち、國難日本を双肩に擔つて決死挺身、昭和維新を斷行せんとする日本フアツシヨ明倫會の一大愛國運動がそれである。

本社が七月十五日以來、連日明倫會の勇しき前進、擴大強化の足跡を特報するや、俄然中外に異常なるセンセイションを捲き起した。而して、該記事に刺戟された國民の愛國的興奮は、颯風の如く全國を風靡し、特に掲載紙全部の通讀を希望する讀者が連日本社に殺到するに至つた。





本社は、それらの人々の希望に副ふべく、こゝにパンフレット  
 を特輯して頒布することにした。記事の配列は、大體掲載日順  
 に據つた爲め、多少の重複は寛恕されたい。

昭和七年七月二十五日

大阪時事新報社



田明倫 (段上)  
 中會同 (段中)  
 國都神大 (段下)  
 重備備備  
 大備備備  
 將員員員  
 會員員員





將少磯小・將中平奥 (りよ右段上)  
 將中木荒・氏耶一廣原石と將中平奥 (りよ右段中)  
 氏剛正野中・氏耶太柳井永・氏耶一廣原石・氏耶次竹次床 (りよ下段右)

## 目次

序	………	一
國難日本を双肩に！	………	一
明倫會の誕生と歩み	………	四
既成政黨打破、農村救済の大旗を掲げて	………	四
その名は「明倫會」決死の愛國運動	………	七
京都支部創立準備會	………	一〇
國家社會黨、明倫會と共同戦線	………	一一
關西支部結成	………	一三
集つた人々	………	一五



地方への組織擴大	………	一六
遂に國民運動へ	………	一八
愈よ創立總會へ	………	一九

昭和維新・愛國運動の動因	………	二〇
屈辱軟弱外交に痛憤	………	二〇

強力なる國民的支持	………	二四
全文血書の激勵	………	二四
奮起する在郷軍人	………	二五
合法的發達を望む	………	二七
在郷軍人の参加は當然	………	二八

陸軍當局と明倫會	………	二九
----------	-----	----

國民的愛國運動として好意を持つ	………	二九
荒木陸相遂に動く	………	三〇
財界に大ショック	………	三三
大阪商工會議所起つ	………	三三
北濱への影響	………	三四
ファツシヨ運動の効果	………	三五
法學博士 高柳松一郎	………	三五
曉夢を破られた既成政黨	………	三七
田中大將、床次氏の懇請を蹴飛ばす	………	三七
永井拓相、安達氏門前拂ひ	………	三九
政黨幹部對策に奔走	………	三九
田中大將は私に共鳴	………	四〇
主張には至極賛成	………	四二
村田虎之助	………	四二







軍隊的統制の下に於て行はれつゝあるとは云へ、これが國民ファシストの結成として舉國的に決定勢力を握るに至つた裏面には、帝都を戦慄せしめた五・一五事件から急旋回を遂げた要因がある譯で、大阪時事新報社が飛躍的努力を拂つて探り得たこの間の真相は以下述ぶる如くである。

我國に於てファシズム發生の社會的要素は滿洲事件以來幾多存在して來たので、日本ファシズム運動は漸次擡頭しこれがファシズム・プロバアと社會ファシズムとの二潮流となつて展開し、プロバアの中には國粹ファシストの國本社、國維會、神武會、立憲善生會、行地社、五日會、日本ファシズム聯盟、議會ファシストの社會國民主義、國民ファシストの軍部少壯將校「さくら會」を始め諸團體があり、社會ファシズムの中には無産ファシスト四派が含まれ卅餘のファシスト團體が簇生したのであつたが、中でも國本社は平沼騏一郎男及び軍部に中堅となつてゐる荒木貞夫中將が中心となつてゐるので、世間からは軍部の壓倒的應援がある爲めに大勢力を豫期されてゐたのであつた。然るに茲に突如起つたのは五・一五事件で、大養内閣はこれによつて總辭職の運命に陥り、國本社の國粹ファシストを背景とする平沼男も後繼内閣騒ぎの渦中にさへ持出される状態となつて、日本ファシズムは正に「國本社」中心と思惟されるに至つたのであるが、事實は

これとは全く反對に軍部内には此明倫會の愛國運動が勃然として起り、世間の噂にのぼる日本ファシズム諸團體とは全然離れて、全國各府縣の在郷軍人の佐官以上の首腦が中心となり、これに現役佐官級以上の英才を網羅して財界に於ける特殊な愛國者を加へて、明倫會の組織に向つたものである。従つて此會はその成立に於て既に現役軍人のテロ化に刺戟され、今日の社會情勢を憂へて立つたもので「光輝ある帝國軍人をして再び五・一五事件の如き不祥事件を起さしめないやうに衷心國家を思ひ、皇軍の統制を保たしめん」が爲めの運動であるが、他面「政界を廓清し黨弊を除き、善政を布いて社會情勢を平和にするにある。よつて若しこれが實現の爲め既成政黨を打破する必要があるれば敢然として打破する方針である」と云はれ、首腦者は既にこの運動の爲め即ち國家の爲めには、生命も、名譽も、財産も總てを投げ出すを誓つてゐるのである。現に齋藤内閣に對しても「多大の希望を繋ぎ得ないから本會の結束發展によりこの趣旨を貫徹する」の意を決定してゐるので、今後政治的に活躍する事は嚴秘裡に聲明してゐる別項の對政府宣言によつても明かである。



## 明倫會の誕生と歩み

### 既成政黨打破、農村救済の

#### 大旗を掲げて！

世界的に巻き起つた「ファツシヨの嵐」は我國に於ても、對外硬、農村問題、政黨腐敗、財閥不正行爲、テロリズム等の問題を絡めて物凄く展開されて來たので、既成右翼團體はもとより、新右翼大衆に呼びかける新ファツシヨ團體が右翼無産陣營の中からさへ展開されるに至つた。然るにこれが決定的中堅勢力をなしてゐると認められてゐる所謂「軍部」方面に於ては、かへつて鳴を静めてゐる状態であつたが、内部に於ける潜行運動は驚くべき進展を見たものゝ如く、遂にその尖端的部面に於てはファツシヨの旗幟を掲げて、國民の指導的立場を獲得すべく、いよゝゝ

表面的運動を起す事に決定し、一切の陣容を完成するに到つた。この新日本大衆によびかける軍部方面の大ファツシヨ運動の出發こそ、政界、財界、思想界に一大センセーションを捲き起したのである。

軍部關係方面から國民大衆に提唱せんとするファツシヨの陣容を聞くに、總帥としてその運動の中心をなすものに豫備陸軍大將田中國重氏を推し、豫後備佐官級の陸軍智囊數十名を網羅してその左右に配し、總本部を東京に置き、大阪、京都、名古屋、神戸、横濱、福岡、廣島、金澤、仙臺、小樽の十箇所に大支部を設け、更に他の主要都市に小支部、町村に各班を配する事に決してゐるが、右の内東京の總本部は勿論、全國の六都市には既に支部が設置され、神戸其他の四箇所も目下潜行的に設立準備を急いでゐる。支部の組織も實に堅實なもので、この府縣に於ける軍部關係者中で前途有爲な府縣市會議員を支部長とし、その地に於ける在郷軍人團の中堅をこれに配して、統一的活動を行ふ仕組になつてゐる。

田中國重將軍は此國難の非常時に臨み、時局匡救の爲當然投げかけられるであらう世間の毀譽褒貶の責を一身に擔ふ覺悟をもつて敢然としてファツシヨ運動の旗印をもつて全國民に呼びかけ



る決意の下に、まづ軍部の首脳部に諒解を求めた處、先般來、再三交渉の結果、軍首脳部に於ても、在郷軍人を中堅とする愛國運動の熱意を迎へ、これを承認するに至つたのでこの運動に着手したものである。この運動は既に實行の範圍に入つてゐたもので、今日までは潜行的に行はれてゐたものであつたが、陣容が完成すると共に宣言、綱領等も續いて發表された。その主張される三大綱領は左の如くである。

一、議會を否認せず

一、既成政黨打破

一、農民労働者の救出

右によれば議會政治を否認するものではないが、黨弊を百出してゐる既成政黨に對しては飽くまで打破をもつて進む方針であるから、既成政黨内はこれによつて動搖を來し、在郷軍人たるものはもとよりであるが、かなり脱黨者を見るであらうと觀測されてゐる。また他の綱領である農民労働者の生活救済はこのファツシヨ運動が在郷の將兵をもつて根強く建設されることを物語るもので、その運動の大衆性に期待は投げ懸けられてゐる處である。

## その名は「明倫會」

### 決死の一大愛國運動

我軍部きつての硬骨將軍田中國重大將を總帥とし、軍部首脳部諒解の下に佐官級の智囊を網羅して日本ファツシヨの旗幟を掲げて國民のヘゲモニーを獲得すべく根強い大運動の起つた事は、七月十六、七日附大阪時事新報夕刊特報の如くであるが、今日まで該運動は全くファツシヨ的統制下に極秘裡に行はれつゝあつたもので、この潜行運動が實質的に驚くべき進展を遂げてゐることは軍部自らすら目を見張つてゐる程であるから、この事實が世間に表面化されるや、財界、政黨、思想界方面に大渦を巻き起して、その真相と成行に絶大の注意を拂つてゐるが、このファツシヨ運動こそは我軍部の既成政黨の腐敗に對する呪咀、財閥の不正行爲に對する國家的義憤の結晶的成果とも云ふべきもので、海陸の指導的立場にある將官もこれに參畫して、その名稱を「日本ファツシヨ明倫會」と稱し、此國難に際しては一切の政黨者を排撃して、軍部が國民指導の立



場に立つて難局打開に當り、祖國愛によつて善政を敷かねばならぬとの宣誓によつて、國民の中堅たる在郷軍人を中心とする大組織を基礎として力強い出發をしたものである。

「明倫會」の一大愛國運動は、軍隊的に統制ある潜行運動によつてゐたものであるだけに、これが大阪時事新報に特報されるに至つたについては、各方面に大波紋を投げかけたのであるが、この愛國運動は、我國刻下の内外情勢が押迫つてゐるので、舉國的共鳴を受け急速に進展してゐるので、その本體は東京市牛込區田町一丁目四番地市ヶ谷ビル内に本據を置き、會長は既報の如く豫備陸軍大將田中國重氏にして、副會長は郷軍將官中論壇の雄として名ある陸軍中將奥平俊藏両氏を戴き、全国各地共にそれが意外に具體化されてゐることは、別項大阪に於ける實際的行動によつても明かに觀取され、その健實で有力な存在に驚かされるであらう。

即ち關西總本部は今日まで地下的運動に終始してゐたため表面的に現れず、大阪府特高課でも右翼リストの作製上その本據を探知すべく苦心してゐたが、遂に突止め得なかつたものであるが、大阪時事新報社の調査により右總本部は大阪市西區新町通四丁目五番地海軍協會大阪支部主事西尾信一氏方にあることが判然するに至つた。關西に於ける愛國運動明倫會支部は去る五月十七日、

東京總本部より奥平豫備陸軍中將が本部書記長井上勝好氏と來阪、北區梅田町三富旅館に本據を置き、第四師團及び大阪憲兵隊諒解の下に各方面に潜行的運動を行ひ支部結成に奔走した結果、府下守口町豫備陸軍少將森下正氏、海軍協會大阪支部幹事豫備海軍大佐永野永三氏、北區堂ビル二階海軍軍醫少佐坂田忠作他別記の如き阪神在住在郷軍人會有力者の共鳴を得たので、同月二十七日夜秘密裡に北區天満橋の野田屋に會合、第一回關西支部創立委員會を開くに至つた。當夜野田屋に會合した顔觸れは奥平中將を中心として

豫備陸軍中將權藤傳次、同少將森下正、第四師團偕行社理事陸軍歩兵中佐田中喜一、第四師團附青年訓練所主事陸軍騎兵中佐由上治三郎、大阪市此花區在郷軍人分會木村惣三郎、府下泉北郡在郷軍人分會聯合會長兒山保之、アジャ聯盟協會木本國三、大阪商工會議所議員川上胤三、海軍豫備軍醫少佐坂田忠作、海軍協會大阪支部幹事永野永三、同主事西尾信一及び河野千太郎、大同和藏、柿澤宗彦諸氏の他、神戸より石原産業海運株式會社々長石原廣一郎、上西龜之助、近海郵船神戸支店長小畦四郎、同市會議員大越兵藏

の諸氏が加はつたもので、この二十一氏の會合により愈々關西支部結成が具體化し、不取敢前記



二十一氏がその席上創立委員に挙げられることになつたもので、當夜の會合こそ進むやうな祖國愛の意氣と熱の結晶であつた。

而して愛國明倫會關西支部その後の運動は大阪を中心として奈良、和歌山、兵庫の三縣を管轄區域に包含すべく各方面と連絡をとり第二次的運動に着手、これと同時に會員は財産もいらす生命もいらす只國難打開に一路邁進するの勇氣と膽力と正義感を有する同志を糾合、而も量より質といふ嚴選のもとに着々メンバーを集めた結果、愈々七月二十二日夜西尾信一氏方の支部創立準備會事務所に於て第二回創立委員會を開催する運びとなつたものである。

而して右運動の別動隊は京都府下へも組織の手を延ばし、かねて潜行運動中であつたが、愈々その中心人物として豫備陸軍中將天野邦太郎氏が乗り出すことに決定、大阪支部結成後聲明書を發表、細胞組織のもとに具體的運動に着手することになつてゐる。因に天野中將は奥平中將と士官學校同期の出身である。

**京都支部創立準備會** 全世界を蔽ふ渾沌の雲は何時晴れるとも見えず、内憂外患相踵いで起り、收拾すべからざる現在の時局に對し、國民は全くニヒルの世界に陥らんとして居る秋、國

政に參與する既成政黨の腐敗と、之れが打倒を叫ぶ無產政黨の微力はつひに明倫會の結成を見、茲に舉國的一大愛國運動の波は澎湃として各地に捲き起つたのである。去月以來關西地方に於ても大阪、京都、神戸と數回に亘り支部創立準備委員會が催され、着々として結束の歩を固めつゝあつたが、漸く全國的形勢の好轉を見るに至り、七月十八日名古屋で東京本部より明倫會副總帥奥平俊藏中將を迎へ、在名の在郷軍人、實業家、辯護士數十名と某所に會合し、名古屋に於ける不拔の地盤を形成した上、同二十日京都に向ひ、茲に京都支部設置の具體的一步を築きあげるため在京の石原氏、藪田氏と近太旅館に落合ひ、午後六時より三條河原町東洋亭に於ける明倫會京都支部創立準備會に臨んだ。

## 國家社會黨、俄然

### 明倫會と共同戰線

明倫會のファッシヨ運動は各方面に異常なセンセーションを興へ、社會各層には現在の既成政



黨がいかにも無力であるかを知らしめ、深刻なトビツクの中心をなしてゐる折柄、大大阪を中心に全約二萬の労働大衆を率ゐる國家社會黨の大阪聯合會では、七月十九日夜書記局會議を開催し、中央委員平井美人、田中一廣、藤岡文六、麻孝之輔、赤松五百麿氏等出席し、明倫會のファツシヨ運動について協議した結果「明倫會は反資本主義で非常時打開の一大愛國運動であるから、この際東京本部の意向決定次第共同戦線を張るべきである」といふことに決定し、直ちに東京本部に報告し指揮を仰ぐことになつた。

明倫會との共同戦線について、國家社會黨中央委員藤岡文六氏は語る。

明倫會はアンチ資本主義、非常時打開の愛國運動であるから、我々は進んで共同戦線を張ることになり、大阪側の意向を東京本部に通知し指揮をまつてゐる状態である。明倫會の愛國運動がファツシヨ運動の中心母體となつても、我々國社は從來無産政黨のやつたヘゲモニーの争はやらない、只だ協力してこの國難打開のために一意専心したいと考へてゐる。

## 關西支部結成

救へ日本！といふ救國の大旗飾のもとに血と血、熱と熱、そして男性の意氣と愛國の正義感により結成された新日本主義、日本ファツシヨ明倫會關西支部の第二次創立準備會は、これまでの地下潜行運動より脱却、七月廿二日午後七時より大阪市西區新町通四丁目五の西尾信一氏方の支部創立準備會事務所にて堂々と行はれた。

これより先大阪府特高課では思想係長岡田警部以下所轄新町署の羽納高等部長その他と共に、會場たる同事務所を訪れ、尙大阪憲兵隊よりも特別高等係の碓井憲兵曹長が愛國志士の會合を秘かに探知せんと集り物々しい警戒ぶりだつた。愛國の老將軍奥平陸軍中將は午後六時半明倫會關西支部發起の一人で熱烈なる同會の支援者とみられてゐる石原産業社長石原廣一郎氏並びに將軍の出迎へに赴いた明倫會關西支部結成準備會幹事西尾信一氏を帶同、大阪に於ける將軍の宿舎たる北區梅田町の三富旅館を自動車にて出發、同四十五分西區新町通四丁目事務所に到着した。



これと相前後して昭和維新の救國運動に加盟、皇室中心の新日本ファツショ運動に悲壯の意氣を示して乗出した別記の如き支部細胞組織結成のメンバーは續々參集、去る五月二十七日夜北區天満橋の野田屋に行はれた地下潜行の準備會メンバーの他に新に播磨造船社長松尾忠二郎、大阪市住吉町綿布業豊島久七、大阪市外塚口住宅地大同電力重役續木篤次郎、木山瑛瑯支配人近藤房吉、大阪西區矢吹禎一郎諸氏等祖國愛に燃えた有力の士が加はり、當夜の集りこそ關西に於ける愛國運動の總本山たる觀を呈した。

熱烈な祖國愛に燃えた當夜の會合は同事務所二階の大廣間に於て午後八時より奥平中將を中心として開かれ、その内容は一切公表されぬが、大阪時事新報社の探知せる處によると、まづ奥平中將より明倫會結成の趣旨並びに主義綱領を詳細に説明「國家の前途益々急、この際吾等同志は一死報國あるのみ」と結び、約三十分間に亘る將軍の熱辯はその間眉宇に決意の血がほとばしり熱烈憂國の至誠は冷つとする程襟を正さしめるものがあつたと傳へられてゐる。

これに次いで石原廣一郎氏が起立、將軍の言に補足して「我々の行動は飽くまで嚴正、しかも合理的であらねばならない。我々のメンバーは量よりも質で、要するに社會的に立派な人格をもつ

人物なら既成政黨に關係せぬ限り我々は之を包容せんとするものである」とのべ、續いて支部創立委員會の自己紹介に移つた。この自己紹介は一人約三分間で、まづ奥平中將より「自分が奥平俊藏である……」と簡単な履歷にその抱懐する祖國愛の救國運動に對する所見を語り、この型によつて憂國志士の自己紹介は始まつた。「自分は大阪住吉區旭町豫備海軍大佐吉見勇助……」「自分は神戸市海岸通近海郵船社長小畦四郎である……」とその言々句々は熱血溢るゝ正義感と憂國の大雄辯に終始し、恰も幕末維新當時に於ける憂國志士の全貌を目のあたりに彷彿せしむるが如きものがあつた。

**集つた人々** 日本ファツショ明倫會關西支部結成第二次準備委員會に集つた當夜の顔觸れは左の諸氏である。

大阪市西區新町通り四ノ五西尾信一、住吉區住吉町五三五綿布業豊島久七、住吉區阿部野筋五ノ四一實業家大同和藏、市外塚口住宅地二條通り一四號大同電力重役續木篤次郎、府下泉北郡濱寺町地主兒山保之、住吉區住吉町一二九七木山瑛瑯支配人近藤房吉、東區材木町一三亞細亞聯盟理事河野千太郎、此花區玉川町三丁目軍醫少佐坂田忠作、市外久寶寺口亞細亞聯



盟會長木本國三、西區鞆南通二の一實業家矢吹禎一郎、住吉區住吉町船舶業山本源吉、天王寺區北山町二〇佐坂新平、住吉區旭町一の三八海軍豫備大佐吉見勇助、神戸市海岸通一丁目近海郵船社長小畦四郎、同市湊東區東川崎町四五市會議員大越兵藏、同市海岸通り二ノ六海運業上西龜之助、同市湊東區東川崎町四ノ七〇恢弘會理事柿澤宗彦、兵庫縣川邊郡川西町鶴之莊海軍大佐永野永三、兵庫縣川邊郡稻野村陸軍中將權藤傳次

## 地方への組織擴大

日本ファッショ「明倫會」の關西各地に於ける活躍は物凄く展開して、中國、四國、九州等に亘る各都市にも支部設置の機運が濃厚となり、在郷軍人聯合會の首腦が秘かに東京總本部と連絡をとり、副會長奥平中將が専ら地方オルグの總指揮に當つてゐる。然し東京本部の牛込區田町一丁目四番地市ヶ谷ビルは何人が訪れても一驚を喫する大伽藍洞であつて、唯陸軍憲兵豫備少佐が唯一人受附を持つて居り、幹部としては井上書記長が大奥に控へてゐるのみで、全く潜行運動の

主體らしくなつてゐる。然るにこれが組織に至つては、軍隊的訓練による最も科學的なものであり在郷と現役とを問はず確乎たる指導精神に基いて着々と實勢力を擴大しつゝあるが、かく軍部が堅い團結によつて愛國結社に突進するに至つたのは、實にロンドン條約當時から胎成してゐた氣運が根強く軍部に喰入つてゐるからである。

救國日本の旋風の運動として、全国各地に燎原の火の如く展開されてゆく日本ファッショ明倫會運動は、郷軍の首腦から首腦へと堅い結成の途を秘かに歩みつゝあるが、既に軍部關係以外でも、從來既成政黨の何れにも不滿を持つてゐた人が、唯一の愛國黨として集り、本部長として活躍中の石原廣一郎氏は、奥平中將より一足先に七月十八日夜神戸に歸り、名古屋、姫路、岡山、廣島、山口、小倉、久留米等の各地と連絡をとつて支部の具體化に努めつゝある。ファッショの特徴とも云ふべきは、中間階級層の支持であるが、これが我國の中堅を形成してゐる年配の人々に特に都市よりも農村に於て指導者的イデオロギーに合致するので、明倫會支持者層は西日本の農村にも驚異的に増大を見てゐる。軍人層に捲き起つた日本ファッショの志士の救國濟民運動が社會の中間層特に農村が眞先に應ずる傾向を濃厚に示しつゝあるは五・一五事件以來の社會情勢



を明白に反映してゐるのである。

## 遂に國民運動へ

田中國重大將を總帥に戴く明倫會組織運動は、各地方における健實なる在郷軍人の共鳴を得つつあり、殊に今回の運動が深き信頼を博するに到りたる要素として認めらる點は

- 一、憲政擁護の建前に基づく既成政黨打破運動に存する點であつて、何人もこの點に關しては異存のないところでこの新しい旗印は新日本の進路を示現するものと確信せられてゐる。
- 二、のみならず會長に推されてゐる田中大將はわが陸軍の總帥たる上原元帥から最も深く信頼を受けてゐる關係から軍部内の評判も頗る好い、従つて同大將の人格を中心とする結合も亦明倫會の將來を發展せしめる一大要素と目せらるゝに到つてゐる。

三、更に明倫會の組織準備は表面的な宣傳的運動を行はなかつた丈に、組織準備の經過は頗る良好健實であり、この好勢を持続する限り明倫會の運動は今や一大國民運動化するに到らん

としてゐる。

## 愈々創立總會へ！

日本フアツション明倫會組織準備運動は、關西方面において遂に本紙により表面化するに至つたのであるが、東京牛込田町の本部假事務所においては、専ら全國的情勢の好轉を待つて空前の大團結による結成を遂げんと着々準備を進めて各方面の情勢蒐集を急ぎつゝある。各種の組織準備會のメンバーをまとめると共に、速かに政策を正式に確立し、決定次第創立總會とも云ふべき第一回大會を東京に招集する段取となつてゐる。東京側の意向としては今日のところ大體八月上旬に大會開催を見る見込みであるが、地方準備會の結成の進捗如何によつては或は七月下旬に開くことゝなるかも知れない。



## 昭和維新愛國運動の動因

### 屈辱軟弱外交に痛憤

日本フアツシヨ明倫會が何故に結成され、また何故に現状打開の愛國運動を起すに至つたかは本誌記載の同會聲明書並に主義綱領に依つて明かなる如く、全く幣原男一派の軟弱外交に痛憤し——軟弱外交遂に國を誤る——といふ一大信念から出發したものであることは今更いふまでもないが、これに拍車をかけて軟弱外交打倒の叫びをあげるに至つた重大原因を見逃すことは出来な<sup>い</sup>。即ち昭和五年のロンドン海軍條約で對米七割比率の我主張は完全に敗れ、當時國防力の缺陷を如何にするかと世論沸騰し、議會でも是に伴ひ統帥權問題が八釜敷く論ぜられたことは心ある國民の尙ほ記憶に新たなるところであらうと思ふ。この海軍條約を結んだのは時の全權若槻禮次郎氏と、同じく財部海相並に内閣にあつては濱口首相と幣原外相である。

當時我海軍では東郷元帥を始め對米比率七割は一步も譲られぬと主張し、これは財部海相歸朝後の七月二十一日の非公式軍事參議會で「倫敦條約は國防用兵上如何なる影響ありや」の奉答文作成に際し東郷元帥は「條約力量は國防用兵上缺陷がある。この缺陷は航空機及びその他の制限外兵器によつても完全に補充することは困難である」と實に強硬に主張したものであつた。當時政府と軍部との折衝十數回、紛糾に紛糾を重ねて、形勢實に重大を極め、政府は如何に拜み倒さんとしても海軍の強硬派これを肯かず、遂に同二十三日の宮中における參議會でこの兵力量問題は「用兵作戰上支障あり云々」と斷案を下されたのであつた。

これ實にロンドン海軍條約といふ屈辱的協定に依つて生れた我が國防力の破壊である。これが幣原外交、延いては現に民政黨の總裁である若槻男や時の全權にして海相たる財部彪大將らに依つて締結されたのだから軍部の人々、殊に若手將校の痛憤は實に想像以上であつた。だから當時ロンドンに在る財部全權に會見して我主張の貫徹に努力させ、若し幣原軟弱外交に加擔して全海軍の輿論を無視するに於ては「其分に捨ておかず」と憂國の熱情に溢るゝ某中佐はわざ／＼ロンドンまで出掛け、財部全權を尾行したが、これを知つた全權團は警戒を嚴重にして、膝詰談判せん



としたが果さず、そのうちに四月二日となり日英米三國協定の原則的成立となつたので同中佐は「わが使命遂に空し」何で此まゝオメオメ故國に歸ることが出来ようと、前途有爲の身を異郷に恨みを呑みつゝ遂に自刃したのであつた。ロンドン條約はかくまでに海軍將校を痛憤させたのである。

更に軍部の人々をして憤慨せしめ、このまゝ日本の政治を軟弱外交や政黨政治家に委かしておいては國家の前途危ふしと愈々軍部の有志をして蹶起せしめるに至つた大事件が勃發した。ソレは同年四月一日のことである。當時政府はロンドン會議に對して若槻全權の對米七割拋棄の妥協案を承認回訓することゝなつた。一方海軍の兵力量決定に責任を有する當時の軍令部長加藤寛治大將は若槻全權の請訓即ち對米妥協案を承認する政府の回訓に絶對反對し、自己の職責上即ち大元帥陛下直屬の幕僚として事國防の兵力量に關する軍機軍令事項の更改（註海軍の國防に關する三大原則は既に御裁可になつてゐる國策の一つである）を帷幄上奏して御上聞に達せんものと四月一日の朝侍從長の鈴木貫太郎大將迄帷幄上奏の手續を執つた。世界平和のため帝國海軍の三大原則の更改亦已むを得ずとする政府の意見が、今やその儘國家意思として國際會議の席上に傳達

回訓されんとしてゐる時、大元帥陛下直屬の幕僚として自己の當然の職責として、帷幄上奏せんとするは加藤大將の執るべき當然の途であつた。

然るに何事ぞ。その日のうちに加藤軍令部長と反對の立場にある濱口首相が參内して回訓案を上聞に達した。そして加藤軍令部長の反對意見の帷幄上奏は翌二日に延ばされたのであつた。なぜかくも前後したか、それは宮中の御都合に關することだから猥に臆測すべき限りではないが、道途傳ふるところによれば、財部海相の岳父は薩閩の大御所山本權兵衛伯であり、内大臣の牧野伸顯子はこれが薩閩文官の頭目であり、又鈴木侍從長は財部海相とよく濱口首相に頗る好意を有してゐたともいはれてゐる。一日と二日の間に前記の人々が干與してゐるかどうかは不明であるが、其後牧野内府邸が何者かに襲撃されたとも傳へられてゐる。此結果兵力量問題で最も強硬であつた軍令部長の末次中將はその後六月十日海上勤務に轉補されたが、この轉補にも加藤軍令部長は絶對反對したが、財部海相の内奏により如何とも爲し難く、逆に己れも斷然辭職することとなり、十一日遂に軍事參議官に補され、谷口大將その跡を襲ふたやうな次第であつた。この問題、即ち對米七割比率の讓歩に依る國防力の缺陷問題は延いて統帥權干犯といふ大問題を生じ、



議會に一大波瀾を捲起したのであつたが、軍部殊に海軍の若手將校をして軟弱外交排撃、既成政黨憎惡となつて遂に今回の日本ファツシヨ明倫會を産むに至つたものである。

### 強力なる國民的支持

#### 全文血書の激勵

明倫會の愛國運動に對する支持の聲は全國津々浦々に至るまで響いて、關西本部には毎日山のやうに感謝、激勵、申込の手紙や訪問者が續出してゐるが、特に感激を覺ゆるのは指を切つて全文血書で激勵や願ひの文を送つてくるものが多くあるのは、明倫會の趣旨が眞劍に國民に共鳴されてゐることを物語つてゐる。既に二千、五千、一萬等の會員を持つ團體をあげて投じて來るものもあるが、當分は團體申込を一切拒絶して、個人單位として、個人としても

イ、既成政黨に於て政治的惡業を行つたと認められるもの。

ロ、現に既成政黨と見られるもの。

ハ、この運動を所謂鳴物にするが如き懸念を抱かれるものを斷然さけて

社會的に立派な人格を持つもの

を抱擁することになつてゐる。従つて町村の支柱たる在郷軍人が中心となるが、入會は軍人に限らない。

#### 奮起する在郷軍人

明倫會運動に關する東京本部の準備運動は着々進められつゝあり、京阪方面の準備の完成とともに更に名古屋方面の準備も完成する段取となつてゐる、準備運動も極めて確實に行はれてをり宣傳的運動方法を避け私心を挟まざる憂國の士の來り投することを求めつゝある。しかしこれら



愛國の士は何れも各地の支部準備會と連絡をとりつゝあるが、各地の連絡準備の劇務を擔當すべき地方在郷軍人會員中の下士官級の人士からの積極的申出が豫想外に多數に上りつゝあり、本部側でもこれらの申出を歓迎してゐる、本部側では地方農村在住の在郷軍人が明倫會運動に参加せんとすることは、取りも直さず地方農村における既成政黨の積弊を打破せんとする機運の動いてゐることを示す證左であるとしてゐるが、本部準備會の方からは別段在郷軍人會に對し何らこの運動に對して諒解を求めたこともなければ、今後とも積極的に働きかけるやうなことはない、しかし地方在住の在郷軍人諸氏がこの運動に参加することは結構であるとしてゐる。

明倫會と在郷軍人會との關係如何は各方面から極めて注視されつゝあるが、在郷軍人會側の意向は

- 一、明倫會があくまで合法的運動によつて國難打開に邁進せんことを内心希望してゐる。
  - 二、現に在郷軍人會員中に個人として既成政黨に交つてゐるものもあるから、況んや新しい愛國運動に参加することについては會員各位の自由意思に任せる。
- との見解を採つてゐるに對し、明倫會側では

在郷軍人會と明倫會とは全然別個のものである、しかし在郷軍人會員にして愛國の至情から明倫會に参加することは一向差支へない、しかし多數より質のよい人々の参加を期待するといふにある。

## 合法的發達を望む

在郷軍人會本部 和田 中 將

去る七月廿一日東京市牛込區若松町の在郷軍人會本部を訪問して、愛國明倫會運動に關する關係を問へば、折柄居合せた帝國在郷軍人會副會長和田陸軍中將は左の如く語つた。

明倫會運動については先日チョット聞いたがまだ詳細に接してゐない。然し斯かる重大な時局に愛國運動が起るといふことは眞に喜ばしいことである。在郷軍人會として今までの傳統上直接之れに参加することは出来ないが、個人の資格としては自由であるから會員中には相當參加者もあるだらう。明倫會運動が大になるか否かは全く合法的であるか否かといふこと



によつて決するのだから、飽くまで合法的に發達して欲しいと思つて居る。田中大將は自分より士官學校を二期先輩で、永らく外國に居られた人で、自分が第一師團長時代に、大將は近衛師團長だったので背中合せに住んでゐたことがある。豫備役編入後は二三度しかお目にかゝらぬ。大將は非常に頭の良い人でバリ平和會議等の事情に最も通曉せられて居る。又奥平中將は非常に元氣な人で能辯家である。

## 在郷軍人の参加は當然

### 第四師團の某少將語る

軍人を中心にファツシヨ團體を公然と作つた場合、郷軍の去就はどうかといふやうな事は、私の口から更めて言ふ迄もないと思ふ。ファツシヨが依然國本主義、皇道主義である限り、在郷軍人は當然夫に好意を持つだらう。但し根本思想に變りはなくとも各人には夫々の立場と、考へ方があるから勿論一様には行かぬ。軍人は現役、豫、後備の別を問はず、軍人その

ものが既にファツシヨそれ自體だとも言ひ得るのであるから、殊更にファツシヨと麗々しく銘打つて此際世間の注視を惹くやうな團體を作る必要もない程である。帝都事件以來世人の中には、ファツシヨは一面直接暴力行爲を標榜するものだなどと、あらぬ誤解を抱いてゐる者も未だにあるやうに自分は聞いてゐる。ファツシヨは祖國主義で、軍人亦祖國主義だ。戦時、平時の別なく、郷軍も常に正しい意味のファシストだ。

## 陸軍當局と明倫會

### 國民的愛國運動として

### 大に好意を持つ

明倫會の運動は軍部内から起つたと云はれ、事實帝國在郷軍人會を中心に各地に於て支部結成



に努めつゝあるので、軍部當局がこれに對して如何なる態度を持つてゐるかは、各方面から注目されてゐる處であるが、既報した如く、この運動發生の當初から陸海軍當局には十分なる諒解を得てゐるのであり、例へば大阪に於ける支部組織の運動を行ふについても、第四師團、大阪憲兵隊の諒解を豫め得て運動に入つてゐるほどであるから、軍部當局に於てもこの運動に對しては大いに好意を持つてゐる。右につき陸軍省を訪ひ意見を訊せば當局では左の如く語つた。

明倫會の運動は傳へられてゐる如くであれば、一の愛國運動であり、國民運動であるから、いやしくも國民にして軍籍にあると否とに論なく共鳴する處であらう。唯之も押し進めてゆくと政治運動であるから「在郷軍人會」の名を以つて運動を行ふことは避けねばならぬし、またかく誤解されるのも迷惑であるが、たとへ軍人會關係でそれが重職にあるものであつても、個人の資格に於て運動に入るのは何ら差支へないのである。また在郷軍人會員を手づるにして運動を進めるのも、それが會に直接關係がなければ何ら差支へはない。田中大將が總帥となつてかゝる運動をするに於ては、我々も非常に好意をもつてこれに對するのであるが唯陸軍當局としてこれを支持應援するとか、或は提携するとかは表面上許されない。

## 荒木陸相遂に動く

明倫會の總帥に何人を頂くかは、軍部間に相當問題となつてゐたのであるが、薩摩生れの硬骨武士道の典型として陸海軍人間に畏敬されてゐる田中中國重大將を押し、論壇の雄奥平中將を副會長に配したのである。田中大將は五・一五事件により、痛く國情を憂慮してゐたので、これが推戴の交渉を受けた際は

この明倫會の會長は實に國家的に重大な仕事で、場合によつては生命も地位も投げてかゝらねばならぬのである。然し今日まで軍部の外にあまり社會的に知れない自分を押さねばならぬと云ふのは、いかに國家非常時であるかを物語るものである。かくなれば身命を捨て、突進するのみ。

と堅く決心して受諾したのであつたが、これを應諾するに就いては陸軍の當局である荒木陸相に通告する必要があるので、陸相と面談し、田中大將は



我國の現状は眞に憂ふべき状態にある。政黨が腐敗してゐるとか、財政が窮乏してゐるとか論じてゐる時ではない。この現實的國難を打開せねばならぬ、諸般に亘つて廓清を斷行すべきである、我々の祖先は明治維新を行つた。自分らは昭和維新を斷行せねばならぬのだ。自分はこの意味から、今度明倫會の局に當る決心をした。

とて諒解を求めたのであつた。國本社の中堅となつて關西方面にも遊説を努めてゐる荒木陸相はこの田中大將との會見に、幾度か明倫會運動を中止さすべく、田中大將を思ひ止まらしめやうと考へたが、田中將軍は一度決心すれば決して動かぬのを知つてゐるので、そのまゝ荒木陸相はこれを諒とし引下がつたのであつた。國本社―荒木中將―軍部將校、世間にかく考へられてゐたのが、軍部中堅將校の勢力は實は國本社にはなく、明倫會に集中され、明倫會幹部の奥平、石原諸氏が荒木陸相、小磯次官等とたえず折衝を重ねてゐるうちに、荒木陸相も遂にこの一大愛國運動の支持者となり、明倫會の潜行運動中に表はれた首途の第一政策は、遂に陸軍首脳部をして滿洲國即時承認を強く主張せしむるまでに成功したのである。

## 財界に大シヨツク

### 大阪商工會議所起つ

突如として風雲を捲き起した日本フアツシヨ明倫會の運動は各方面に一大センセイションを招來し、各階層有力人の間に深刻な話題を作り、之に策應すべき直面の具體化作爲は明かに形づけられることはできないまでも、邦家刻下の重大非常時に臨んで適當なる考究對策の緊切なるを自覺して夫々所爲の上に具現せんとしてゐる矢先、先づ大阪商工會議所では時局の重大性に鑑み、七月十九日俄然奮起するに至つた。即ち同所に於ては十九日午後二時から時局對策緊急委員會を招集し、委員たる田附政治郎、川上胤三、金森又一郎、善積武太郎、河崎助太郎、八代則彦、田島繁三、栗本勇之助、飯尾一二、小畑源之助十委員出席し、高柳理事、石田庶務部長外理事側出揃ひ、高柳氏より時局の重大なる所以を力説し、此際緊急相當の對策を講じ時局の大事に善處す



るの要を説き、先づ時局に考慮して此際十一名委員の外に稻畑會頭並に森、安宅兩副會頭の参加を求め委員の増員を諮り十四名に即決され、議題として劈頭問題視せられつゝある明倫會の發生に對する考究に移り、次で中小商工業者並に貿易業者の救済、運動の促進、インフレーション問題等に及び、各員慎重に熟議する所あり、今後直面の問題に着手すべき考究、調査、協議の先着選定の爲めに小委員會を開く事に決し、委員長の外に更に副委員長として栗本勇之助、小畑源之助兩氏を選任し、引續き二十三日午後二時より同所に於て小委員會を開催する事に決定し、午後四時散會した。散會後高柳理事は語る「時局の重大なるを痛感した我會議所では茲に起つて對策委員會の奮起を促すに至つた、此日幾多時局重大問題を議したが、先づ明倫會の設置を問題とするに至つた、次で順次協議したが相當深慮して策を講じなければならぬ」と緊張した面持で意中を洩らし、小委員の諸氏は引續き打合し二十三日續開することに決定した。

**北濱への影響** 軍部中心の日本ファツシヨ運動が突如表面化せられるや、七月十八日の北濱市場はこの聲に壓せられて幾分不安を伴つた氣配を見せ、特に現物方面に於てその色彩を濃厚にし、東新等の如き人氣を最も反映するものゝ下げ足が、もろく／＼實質的な紡績株等比べて大き

な下げを見せてゐるのは明かにこの運動の反映であつた。

## ファツシヨ運動の効果

法學博士 高柳松一郎

ファツシヨの擡頭は政黨がいけないから其の反動として起つたのと、モーツは左傾運動を防止する反動として起つて來たものと、此の二ツの動機からと思ふ。しかし憲法の儼存してゐる以上矢張り憲法政治を可とせねばならぬと思ふ。しかしこの運動によつて兩方とも改善し淨化さす上に効果のあることはいふまでもない。ファツシヨに基く寡頭政治にはどうしても暴壓が伴ふ。國民は自由を尙ぶ、自由を欲する、この見地から矢張り立憲政治が宜しい。故に内治でも外交でも國民が政府を鞭撻督勵して善き政治を行はせよのである。對米問題でも日本の外交が従來傳統的に消極政策を執つてゐたから悔られたので、之を改善して強き外交にしたらよい。今日アメリカは決して日本に戰意を持つてゐない。寧ろ怖れてゐる。そ



これは移民法とか土地法とかで過去に於て随分暴虐な行動に出てゐるので、之を日本人が根に持つてゐることはよく承知してゐて、その反動を恐れてゐる。若し開戦となれば日本は直ちにフィリッピンやハワイ位は占領してしまふ事は易いが、さて持久戦となれば二億二千萬の人口と無限の資源を有する米國は決して日本の敵でない。さうなると日本の不利となる故に挑んで来るなら應戦したらよい。日本から仕向けることは國民の不一致を招いて不利である。故に日本から仕向けぬ以上は日米戦争は起きない。起さなければフアツシヨ等による強硬外交でなくとも國民の鞭撻さへ強ければ強い外交がやれる、要は國民の強き政府鞭撻である。その意味に於てフアツシヨ運動の効果は認められる。私はこの程度に於て之を認むるが憲法政治を否定する政治には與しない。

### 曉夢を破られた既成政黨

#### 田中大將、床次氏の

#### 懇請を儼然と蹴飛ばす

日本フアツシヨ「明倫會」が成立して鞏固な運動を開始するや、フアツシヨの嵐にたかをくつてゐた我國政界、財界の首脳部も、その指導部に於て、基礎に於て、まして財的方面に於て缺くる處のない實力を持つこの運動に對しては大脅威を感じ、周章狼狽氣味であつたが、特に正面から「既成政黨打破—政黨關係者は絶対に参加を許さず」との明倫會の主張に深刻な打撃を受けるのは政友、民政の兩黨であつて、政友會に於ては薩派の關係から顧問床次竹二郎氏をもつて田中大將に面會しフアツシヨ運動中止を懇請せしめる事になり、六月三日夜床次氏は東京市外澁谷



松濤五九の田中大將邸を訪ひ

今日政黨政治に對する國民の非難は不幸にして當つて居る、その黨弊は何人も認める處であるが、政黨も今は大いに自覺し自らは正して眞の議會政治を行ひ、國難を打開して進むから軍人を中心とするファツショ運動の如きは、今日の政黨の自覺自淨に信頼して中止されたいとの意を述べたに對して、田中大將はこれを儼然と劘ねつけ

今日我國をかく國難に處するに至らしめたのは實に貴殿ら政黨者の罪である。政黨が今にして自覺して自ら淨化し善政を施さんとする意志は自覺しないより結構であるが、しかし我國刻下の状態は反省して淨化し追々善政を敷くと云ふが如き生温いことを許さない。然も既成政黨が如何に自覺した處で、どれだけよくなつた處で國難に處する力はもう試験済である。この非常時に處するには軍部が國民を指導して、國難を打開するより外に途は一つもない。我々は既成政黨を飽くまで排撃するものである。

と手厳しくつつ放したので床次氏との會見も遂にファツショ運動中止に至らなかつたのである。

## 永井拓相、安達氏門前拂ひ

軍部を中心とする既成政黨打破の猛運動に驚いて、田中大將邸を訪ねたのは政友會顧問床次氏ばかりではない。民政黨に於ても曩の幹事長で今は拓務大臣の永井柳太郎氏を始め領袖數名が田中大將邸を訪ねて諒解を求めんとしたのであつたが、面會を斷然拒絶された事實もあり、新政黨樹立を計畫してゐる安達謙藏氏も、新黨運動が既成政黨革新によるものであることを述べ共鳴を受けんとして田中邸を訪ねたが、之もすげなく面會を拒絶されてしまつた。政黨領袖中唯中野正剛氏のみは面會を許されて、特に東洋モンロー主義、經濟統制等について新日本ファツショの動向につき意見を交換したのであつたが、その内容は嚴秘に附されてゐる。

## 政黨幹部對策に奔走

明倫會組織運動の熱烈化は既成政黨にとつては一大關心事となり、各派の首脳部はこの運動の



發展性如何に就いては内心極めて重大視しつゝあるが、明倫會が未だ正式に結成を遂げざる今日においては、猥りにこの運動に對する批判を行ふことを避け、専ら靜觀状態を持續しつゝあるが愈々明倫會が一大結成を遂げた曉においては明倫會對政黨關係は如何やうな關係の下に律せらるるか重大視される所であり、明倫會側の立場においては對政黨關係は全然問題にならぬけれども、既成政黨側においては一大影響たるを免れず、既成政黨に所屬する中幹部級の人物中にはこの點に關してしきりに對策奔走中の模様である。

## 田中大將は私に共鳴

### 中野正剛氏語る

日本フアツシヨ運動の總帥田中大將が、今日の政黨領袖中特に共鳴を感じてゐると云はれる新黨運動の立物中野正剛氏を東京市外豊多摩郡代々木本村の自邸に訪ひ、明倫會の愛國運動を聞けば氏は語る。

明倫會の運動については承知いたしてゐますが、私は直接には運動に關係して居りません、唯田中大將とは最近逢ひませんが、前に逢つて話しあつたことがあります。大將も私の最近の主張に共鳴されてゐられるやうに思ひますが、私も先日我國の刻下の情勢については如何に處すべきかにつき種々の意見を書いて文書として差上げたやうな譯です。

## 主張には至極賛成

### 政友會總務村田虎之助氏談

明倫會の主義綱領聲明書を貴紙で始めて知つたやうなわけで、同會に對する智識は貴紙掲載以上には出ないのだから詳しくは申上げられないが、議會を否認せずといふのは當然のことで敢て論ずるまでもないことだ。同會結成の原因として傳ふところの倫敦條約に對する憤懣から軟弱外交の排撃は至極尤もなことでは私は賛成する、これは民政黨に非ざる限り何人も幣原外交には賛成してゐない筈だ、この邊から國家改造の熱烈な新愛國運動を起すといふのは在郷軍人の諸君とし



てさもあるべきことで同感に堪へぬ。ファツショであるからとて頭から反對すべきでない、政界も、財界も、思想界も、各方面に行詰りを生じてゐる今日、愛國至誠の念から國家改造の運動を起した場合、現在の政黨に分解作用が生ずるかどうかは未知の問題だが、假令ば既成政黨に分解作用が生じたとして國家のためであるならばこれまた已むを得ないではないか、私は同會の運動には滿腔の同情を有してゐるが、今までのところでは財政策について、何も聞くところのないのは遺憾である。農村救済を標榜してゐる以上之が救済具體策を伺ひたい、何しろ今日の農村危急を救ふには三十億圓からの大金を要する、これが財源を如何にして得るか、今日の國家財政状態をどう見てゐるか、この點を明かにしたならば同會は一層有力視されるであらう。

## 烈々たる愛國の聲に聽け

「一死報國あるのみ」

### 總帥田中大將と語る

日本ファツショの本流、明倫愛國運動は今や澎湃として全日本を席捲し、愛國の士は續々とし各地に蹶起し、殊に關西方面では總本部の奥平中將と石原氏を迎へて二十日夜京都に支部結成の準備委員會が開かれ、又大阪では二十二日第二次創立準備委員會が開かれんとしてゐる。この時に當り全國民の興味は一にかゝつて明倫會の總帥田中國重大將の言動にある。大阪時事新報社は茲に見るところあり井口、進藤二記者を東京に特派して田中大將の門を叩かした。愛國の老將軍は本紙を通じて全國民に何を語らんとするか、乞ふ本社記者と將軍との重要な會見記に見



よ、これ明倫會總帥としての公式に全國民に呼びかける第一聲である。本社はこの重要會見記を讀者諸君に提供することを喜ぶものである。再びいふ、乞ふ愛國の老將軍が熱烈なる愛國の聲に聴け！

記者は廿日午後三時、東京市外澁谷松濤の自邸に明倫會愛國運動の總帥たるべき田中國重大將を訪れた。莊重なトビ色の二階建洋館で門から玄關までは二間位の距離で、玄關のベルを押すと、女中さんが取次に出て呉れた。早速名刺を渡して「閣下は御在宅ですか」と伺へば即座に「おらつしやいます」「それではお取次を願ひます」といへば、女中は玄關の扉を開けて「こゝで暫らく御待ち下さい」といつて奥へ入つたが間もなく姿をあらはして「どうぞお上り下さい」といふ。玄關の間は板敷である、その奥が洋式の應接間だ、應接間は極めて質素で十疊位の廣さである、テーブルの向側に將軍の坐るであらうと思はれる大きなソファがあり、われ等二人はテーブルを隔てた二つの大きなソファに掛けて待つ。左側の扉が開くと白カスリにハカマを着けた將軍が毅然たる姿をあらはす。ハット思つて立上つて挨拶すると將軍は「掛け給へ」とすゝめる、同行の京日の進藤富士夫氏が「明倫運動に關する所信を伺ひたく參上しました」旨を述べると、同大將

は「御社がこの運動に對して好意を與へられてゐるのは誠に有難い事である」と前提して、別項の如き所信を極めて穩かに極めて力強く語つた。將軍は五分刈頭で黒い鬚があつて、如何にも日本の愛國者をシンボライズする風貌である、六十代といふよりも寧ろ五十代に見える健康體である。

記者「閣下は御避暑にゆかれませんか」

と問へば

將軍「時局は重大だから……」

と頗るアツサリ簡明直截な返事である。

記者「明倫運動は關西では大變共鳴者があるやうですが……」

將軍「國家危急の際に憂國の同志が騒起されてゐることは誠に誠に喜ばしい事である」

と物靜かに答へる、將軍が沈黙すると武將そのものといった感じを與へるけれども、誠に穩かな句調の上に男性的なバスであり、角がとれてゐるから極めて親しみ易い感じを與へる。それは比較的長く外國にゐたせいであらう。將軍は三都合同の各社關係を訊ねた後



自分は奉天戦争の時にアメリカの記者に會つたが、その後中米視察の際サンチャゴで奉天當時の米人記者にバツタリ出會つた。その記者が「日本が中米と提携して米國の中米における勢力を排除するとは本當か」と聞かれて面喰つた程戦争における日本の勝利は全世界の注視の的となつたものだ。又米國ルーズベルト大統領を訪ねた時には「戦勝國からよく訪ねて呉れた」といふや否や大きな手でギョツと自分の手を握りしめられた、しかく諸外國では新興日本の大勝に對して驚嘆したものであつた。

と當時を追想し乍ら、現在日本の國歩艱難を痛感せるが如き面持ちであつた。餘り時間が長くなるといけないと思ひ立上つて挨拶すると「御社の方々によろしくお傳へを乞ふ」と述べわざ／＼玄關まで見送られたのには記者は恐縮した。

田中大將が記者の質問に對し強き決心を眉宇に漂はし語つた處は左記の如くである。

まだ東京の本部は準備中なので何等發表はしてゐないが、近々總べての主義綱領、政策等を發表し得ることと思ふ。關西の目下の狀況は、御紙に刺戟されて各方面に同情者が輩出、種種憂國の士が書を寄せられ、尙ほ憂國の士少からずとの觀がして心丈夫に思ふ。

自分は豫備役編入後此處數年來は専ら蟄居して、社會、國家の情勢を靜觀して來たが、輒近に至り、政黨の弊愈々大となり、内治、外交共に憂ふ可き有様となつて來た。即ち内に在つては農村問題、中小商工業者問題等が起り、外は滿蒙問題をひかへて國家の前途益々急なるものがある。この時に當り既成政黨は尙自覺せず、各方面に其の無能を暴露して全く國民の信望を失ふに至つた。信頼なき政黨の下にある國民を救ふことは、目下の急務であると思つてゐた時に、更に自分の決心を確固たらしめたるものは、かの五月十五日事件である。

國家の國防に當り、軍務に就いてゐる青年將校が死を賭して愛國の爲に盡さねばならなかつたことは、眞實に氣の毒に思ふ。全く政界は腐敗して現役の將校すら國政の爲に奮起しなければならぬ程になつてゐると思つた時、自分も徒らに隱棲すべきでないことを悟つた。此處に至つて遂に起つて、死を以て最後の報國をなすに至つたのであるが、一度び起つた以上は、決して途中で挫折することなく立派に愛國の實を擧げ吾が帝國を累卵の急より救はんと



固く決心してゐる。

## 帝國軍人の政治參與を切望

### 副總帥奥平中將語る

明倫會の共鳴は豫想外で驚いてゐる状態である。名古屋では日本一の陶器會社の社長や、京都では電氣局長などが會員として入會された。明倫會はファッショの如く傳へられるが、外國のファッショではない。新日本主義だ、我々の運動は日本の運動である、然も議會は尊重し飽く迄合法的に事を進める。唯我々が承知ならないのは政黨である、今日のあの政黨では到底眞日本の國政を期待する事が出来ない。政黨は徒らに外國流の憲法論をなして、眞の日本國政を何處にか飛ばしてしまつて居る。そして名を議會政治に藉つてその實政黨の勢力者が内閣を組織し、立法も行政も時には司法迄その手で行ふ如き感ある結果にある。議會政治處ではなく之こそ全くの封建專制である。我々は此失はれたる國政を政黨の手から斷じて取り戻さねばならん、そして全くの

建國の精神に戻つて強力なる天皇政治を擁護すると云ふのが使命なのである。軍部が我々の運動に好意を持つて呉れて居ることは事實であらう、但しこの好意はたゞに軍部許りではない。恐らく我々の趣旨を聞いたものは悉く賛成者であらうと思はれる、つまり八千萬民衆の殆んど悉くが同感であらうと思ふ。

我々の運動が能く外國のファッシズムの一種であるかのやうに云ふものがないでもないと思ふが大いなる誤りである、外國のファッシズムは明確に專制政治を主唱するのに反して、我々は敢て議會政治そのものを否定するものではない、只我々が否定するのは政黨が内閣を作ることである、何故ならば政黨内閣の下では決して日本本來の憲法は活用されるものではない。天皇政治だけが眞實の日本憲法の擁護者なのである、只我々が極力排撃するのは政黨の代辯者たる大學教授連が唱へる外國流の憲法論である。

明倫會の結成が恰も軍部首脳部例へば荒木陸相、小磯次官等と暗黙のうちに直接の妥協が出来てゐると考へるのは全くの誤りである、我々としては軍部の意向如何に拘らず信する所に向つて邁進するだけである、但し軍部が我々の運動に好意を有してくれるといふことは想像出来る。我



我は政治に參與せんとする切なる慾望を有つてゐる、而して帝國軍人の好き代辯者たることを望んでゐるのである。

## 吾等の行動は飽く迄合法的

石原廣一郎氏語る

我々の運動がまるで軍人關係許りで出来てゐる様に傳へられて居るがさうではない、又何か、かう暴力で以て進む様に思はれて居るのも甚だ迷惑である。大體この結成を見るに至つたのは例の血盟事件に懲りて、あんなことが再び起らない様にするためのものであるから、その點特に誤解を解いて置きたい、従つて行動は飽く迄も合法的である、勿論たゞあの罪惡の塊りの様な政黨を許すことが出来ない、そして眞の國政を我等の手で取り戻さなければならぬ、それにはいろいろの方法があるが先づ政黨内閣は斷じていけない。所謂超然強力内閣を實現せねばならぬ、それから種々の法律改正と云ふことになるのであるが、かうしたことを遂行するためには特に會

員を嚴選せねばならない、誰れでも彼れでもと云ふことは斷じて望まない、憂國者のうちでも眞の憂國者許りを以て結成したいと云ふのが我々の眞意である。

**坂田忠作少佐談** 僕等の運動は近く重大な危急のあることを豫測し、その前提のもとに死をも財産をも惜まぬ同志の集りだといふより他には言葉がない、勿論在郷軍人ばかりだ、こんな強い意志のもとに結成されてゐる團體は他にはあるまい。



## 主義綱領と規約

### 屈辱的倫敦條約の

### 破棄に努力邁進せん

#### 綱領五條

- 一、皇祖肇國の 神勅を奉戴して天壤無窮の我國體を尊重し忠君愛國及献身奉公の至誠と道義的觀念との普及徹底を期す
- 二、既成政黨の積弊を打破して皇室中心及國家本位の政治の遂行を期す
- 三、退嬰追従外交を排して自主と正義とを基調とする外交を斷行し以て國威國權の宣揚發展を

期し且つ東洋民族の東洋たる特質の實現に努力す

四、統帥權の大權發動を確保し陸海軍々備を充實し以て國防の安固を保障し且つ屈辱的倫敦海軍協定の破棄に努力す

五、根本的行政財政及稅制の整理を斷行し産業の發展經濟の調和を講じ且つ東亞大陸政策の積極的遂行を期す

### 正々堂々の行動

#### 明倫會規約

第一、本會は明倫會と稱し別に掲ぐる主義綱領の實施貫徹を期するが爲め正義公道を基調として正々堂々の行動を以て輿論を喚起し國民を覺醒し本會勃興の機運を國內に普及徹底せしむべく奮闘努力す



第二、本會の會員は本會の目的に賛同し協心戮力之が遂行を誓約し本會員二名以上の紹介に依り

入會を申出たる憂國の志士にして總裁の承認を與へたる者とす

第三、本會は總裁之を統轄指揮す

第四、役員の任命並に會務の處理に關しては別に之を定む

第五、本會は本部を東京に支部を所要の都市に設置し之に所在地の名稱を附す

第六、支部に關する規約は別に之を定む

第七、本會の經費は有志よりの獻金を以て之を支辨す

## 言々句々憂國の大文字

### 聲 明 書

我帝國は今や内憂外患の一大國難に直面し其狀恰も國家興亡の十字街頭に彷徨しつゝあるの觀

を呈し、危きこと宛然累卵の如し。吾人は此曠古の危機難局を直視し、國を憂ふる秋々たる一片の丹心抑へ難く、茲に蹶然として奮起し、警鐘を鳴らして同胞の覺醒と奮起とを促さんとす。

内を顧みれば國政に參與する既成政黨は眼中政黨あつて國家なく、徒らに政權爭奪に没頭して黨利黨略の獲得に腐心し、國利民福の寄與に關しては何等の經綸あるなく、爲めに百弊續出の因をなし、或は國家の殊遇を辱うする閣員にして私利私慾を充さんがため政商と結託し收賄行爲を爲して恥ぢざる者あり、或は神聖なる勳章を好餌として前代未聞の疑獄を惹起したる破廉恥の官吏あり、或は減俸反對運動を起して官紀を紊亂せる官吏の朋黨あり、或は國政に參與する代議士の選舉を黃白の争ひと化し政界腐敗の因を爲して毫も顧みざる常習犯あり、或は政客と氣脈を通じて巧に金貨流出の機に投じ巨億の暴利を獲得せる貪婪なる財閥あり、而して彼等政黨は一朝政權を掌握するや直に中央地方の大小官吏を根柢より異動して俄ちたる黨人の獵官熱を充たし、或は之を選舉干涉の手段に供して其の治績治安に對しては概ね無關心なるのみならず、甚だしきに至つては植民地の高級官吏、特種銀行會社の要部に至るまで悉く黨人を以て之に代へ、其利權を占斷して黨費の策源地と化するに汲々とし、植民地の經營及び重要なる事業並に金融の施設に對



しては頗る冷淡なる等横暴の極を盡し、爲めに國家の綱紀を破壊し、社會の風教を紊亂し、以て國家を蠱毒するの非違醜狀は實に枚擧に遑あらざるなり。

又我邦財政は逐年甚しく膨脹して國力との均衡を失するに拘らず何等見るべき整理の跡なく、加之偶々最近世界財界の變動に際會するや爲政者の錯覺輕舉に依り巨億の金貨は忽ち海外に流出して國庫の窮乏、國內金融の梗塞滯滞を招來し、更らに之を救済するに方り何等事前の準備、善後の對策あるなく漫然として公債濫發の政策を標榜して一時を糊塗するに腐心し、爲めに一旦曙光を認め得たる我財界の前途も忽焉として暗雲低迷の觀を呈して、民心の不安動搖を激成し、國民生活の安定を缺き國內到る處悲鳴怨嗟の聲を聞かざる所なしとす。

今日の窮迫せる我財界を整理せんと欲せば徹底的に行政整理を斷行すること焦眉の急務なるにかゝはらず、却つて諸種の口實を構へ不急の官職官制を設けて獵官狂の歡心を迎へんとするに至つては其暴狀實に驚くの外なしとす。

抑も我邦の官制は歴代の内閣が人の爲に官を設くるの惡弊を踏襲し來りたる結果、諸官廳は必要以上に膨大し、必然整理の餘地あるに拘はらず之に一大斧鉞を加ふるの英斷に乏しきは勿論、

更に近年何れの政黨内閣も窮民或は失業救済の美名に匿れて不急の土木事業を起し窮乏せる國庫に益々過重の負擔を課して敢へて意とせざるは黨利黨略上より打算したる一種の民心迎合策に外ならず、況や帝都の中央に巍々として屹立する新議院及び新なる諸官廳舎の如き華奢なる大厦高層は我が國富民力と對照して大に權衡を失するに拘らず之に巨額の國費を投するに吝ならざるに反し、國家の浮沈安危に關する國防に至つては之れを不生産的施設として閑却し、反つて軍備の縮小を絶叫し國庫の窮乏を軍備の縮小に依つて補填せむとするの矛盾なる政策を遂行し、之れに加ふるに政黨乃至輿論に迎合して自己の野心を充たさんとする過去に於ける一部の軍部當局は彼等政客と氣脈を通じ歩調を揃へて日露戰役以來我先輩が

明治天皇の御偉業を奉承して苦心慘憺、辛うじて建設し得たる我陸軍に惜氣もなく大斧鉞を加へて前後二回に亘り約八箇師團に相當する兵力を縮小し、尙之に慊たらず國務大臣の榮位に戀々たるの私心に驅使せられて財務當局の理不盡なる要求を一蹴するの勇氣なくして讓歩を是れ事とし、裕ならざる軍事豫算は年々削除の厄に會ふも毫も意とせず、兵器裝具の準備充實を放任し來りたるが爲端なくも今回の滿洲及上海事變に遭遇し、我出征軍の兵器裝具の不備缺陷は遺憾なく



中外に暴露せらるゝの失態を演じたるが如き、其横暴醜狀は能く筆舌の盡す所にあらざるなり。然るに是等の點に關し何れの政黨も共犯者たるの因縁ありて其非道を疾呼し進んで國民膏血の結晶たる國帑の濫用浪費を追及糾弾するの資格なきが爲、政府の豫算は逐年不權衡に而かも加速度を以て膨大するの一途あるのみなり。

斯く弊害百出、腐敗の極に達せる政界官界に向つて財政行政の緊縮整理を望むは蓋し百年河清を待つと何等擇ぶ所なし、嗚呼國家非常の秋には非常の決斷を必要とするに拘はらず、何れの政府も黨利黨略の拘束掣肘する所となり、國家國民を塗炭の苦しみより救ふこと能はざるのみならず、野に在つて天下に呼號して國民に誓約せる諸般の政策も、一朝政權を獲得すれば全然無關心の態度を裝ひて之が履行を怠り恬然として顧みざるに至つては實に驚かざるを得ざるなり。

翻て對外關係を觀れば一層心肝を寒からしむるものあり、即ち歴代内閣の因襲たる軟弱退嬰外交は、大勢順應國際協調主義の外何等の主義主張もなく、爲めに歐洲大戰役直後の巴里平和會議に於て列國環視の下に人種平等案の貫徹に慘敗して以來、或は青島の還附となり、或は九箇國條約の締結に依り滿洲に於ける特權の喪失となり、或は倫敦會議に於て屈辱的海軍協定甘受の結果

拭ふべからざる國防上の一大缺陷となり、延いては統帥權の干犯問題を惹起し、將又今回の滿洲事變に際しては政府當局の錯誤に依り、圖らずも國際聯盟及米國の不當干渉を招來し、併も國際聯盟に於て偶々問題紛糾し其解決困難を告ぐるや、飽迄其主張たる第三者の干渉を排除するの勇氣に乏しく、姑息にも一時其窮境を脱せむため窮餘の一策として聯盟の滿洲問題認識不足を理由に自ら進んで調査委員の派遣を提案して反つて累を後日に貽し、滿洲問題解決の前途に一抹の暗影を投じたるが如き、或は又米國々務卿の一喝に辟易して錦州攻撃のため驟起交戦中の關東軍に前代未聞の敵前退却を強要して我皇軍の光輝ある歴史に千載拭ふべからざる瑕瑾を印したるが如き、上海派兵に於ても我政府當局の態度は終始不徹底にして、敵に大打撃を加ふるの勇氣なく、彼に尙反噬の餘力を存せしめたる結果、停戰會議に當り讓歩に重ぬるに讓歩を以てするも我が主張を貫徹すること能はずして痛く帝國の威信を失墜したるが如き、外交上の失敗は是亦擧げて數ふるに遑あらざるなり。前述の如く我邦内外の情勢を仔細に検討して深く想を國家の前途に馳するるとき、苟くも一片憂國の志あるもの誰か又憤慨せざる者あらん哉。果せる哉、昭和の聖代に彼れ



たるは蓋し其偶然ならざるを想はしむ、斯くの如き不祥事件を根柢より芟除せんと欲せば單に限  
りある警察力の能くすべきものにあらず、其遠因に遡り我政界の積弊を掃蕩し仍て國民思想の善  
導を圖り、現に興奮せる國民の神経作用に根本的治療を施すにあらざれば到底回復の望なきや明  
なりとす。

今や我忠勇なる陛下の軍隊は、或は寂寥たる滿洲の荒野に、或は複雑なる上海の國際環境に、  
勇戦奮闘幾多の犠牲を捧げて我國威を宇内に發揚し、此沈滞せる日本に一大覺醒を促し、吾人をし  
て暗夜に燈火を得たるの感を懐かしめ大に意を強うするに足る者あり、然るに幾多の犠牲を拂ひ  
辛うじて贏ち得たる滿洲國の建設も國際聯盟乃至米國の干涉の爲め、其前途は暗憊として容易に  
樂觀を許さざるのみならず、滿洲國の慈母とも稱すべき地位にありながら、未だ其の承認を躊躇  
して列國の鼻息を窺ひつゝあるが如き不鮮明なる態度は、實に怪訝に堪へざるなり、尙一步を進  
めて滿洲視察をなせる國際聯盟調査委員の調査報告が將來我に不利なる場合、我政府當局は之に  
對抗して飽迄其主張を貫徹するの勇氣ありや否や。吾人は想を茲に致すとき轉た寒心に堪へざる  
ものあり。若し不幸にして政府の最後の決心動搖するが如きことあらむか、滿洲出兵も、上海派

兵も、往年の西伯利亞出兵の覆轍を踏むことなきを保し難し、事茲に至れば、帝國の威信は全然  
失墜し、創業未だ半ならずして大陸より退却するの餘儀なきに至り、遂に我蹋踏たる天地に閉息  
して自滅の運命を俟つ外其の途なきに至らむも測るべからざるなり。故に吾人の死活問題たる滿  
蒙の善後策に關しては、最初の堅き決心に基き、飽まで其主張を貫徹するの覺悟を必要とす。然  
るに眼中政黨あつて國家なき政黨内閣又は歐米政治家の一顰一笑に喜憂する小心翼翼たる政治家  
外交官等に向つて斯くの如き決心を期待するは全く木に縁つて魚を求めぬの類と何等擇ぶ所なき  
を奈何せむ。想うて茲に至れば、吾々日本國民は宛然噴火山上に起臥するの感なきにあらざるな  
り。

吾人は空前の此大難局に直面し徒らに袖手傍觀するに忍びず奮然蹶起し吾人と憂を共にし主義  
主張を同うする天下の志士と結合し協心戮力以て此難局を打開し

明治天皇の御偉業を奉承恢弘して聖恩の萬一に酬い奉ると同時に、大和民族の進路を開拓し國  
利民福の増進を圖り以て光輝ある君國の使命を全うせんことを期す。冀くは憂國の士奮つて吾人  
の此舉に参加せられん事を。



## 齋藤内閣に希望を繋がず

### 第一宣言

吾人は今回明倫會の設立に着手し、別冊聲明書を起案し、之を未だ世間に發表するの機運に到達せざるに先だち、突如として犬養首相兇刃の爲め斃れて政友會内閣の崩壊を來し、後繼内閣の首相奏薦の御下問を蒙りたる西園寺公は從來の慣例を踏襲することとなり、時局の收拾に關して重臣と稱する三四政治家及軍人の意見を徴し、熟慮の結果黨籍を有せざる齋藤實大將を後繼内閣の首相として奉答し、内閣組織の大命は同大將に降下したり。斯くして同大將は政民兩黨の黨首及領袖を歴訪し其同意を得て兩黨員を中樞とする内閣組織に着手し辛うじて齋藤内閣の成立を見るに至れり。西園寺公が政民兩黨の黨首に大命降下を奏薦せずして政黨に籍を有せざる齋藤大將に大命降下を奏薦したるは同公が政黨政治の積弊を痛感し、政黨内閣は到底曠古の此一大國難に

處するの能力なきことを自覺したるものと認定するを至當とすべし。是れ即ち吾人の主張たる既成政黨の積弊打破に第一を印したるものにして、聊か慰するに足るものもあるも、齋藤内閣の内容を檢討するに、政民兩黨を踏臺とせる一種の政黨聯立内閣に過ぎずして、吾人の主義主張とは大なる逕庭あり、齋藤内閣の主義政綱の未だ具體的に發表を觀ざる今日に於ては、之に對する批判は暫く之を避け、其推移を靜觀せむとす。然れども内閣の基礎及閣員の人選に依つて之を觀るに、同内閣に多大の希望を繋ぎ得ざることは今より之を推定するに難からざるなり。齋藤内閣に次いで來るべき内閣が再び政民兩黨の一に歸するの日再現せむか、從來の醜態を再演すべきは火を踏るよりも明かなるを以て、吾人は一層渾身の勇を揮つて本會の結束發展に力を盡し、以て本會設立の主旨貫徹を期せむとす。



昭和七年七月廿九日印刷  
昭和七年八月一日發行

【頒價十錢】

發行兼編輯人 三島聰惠  
印刷人 津川勝三郎

大阪市北區曾根崎上四丁目

三都合同新聞株式會社大阪支店

發行所 大阪時事新報發行所



終

